彼氏は塾の先生

美陽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
彼氏は塾の先生

【Ｎコード】
Ｎ００８０Ｐ

【作者名】
美陽

【あらすじ】
柴田直子は、田中正人先生に恋をして・・・

第1章－1　恋・・・（前書き）

柴田直子と田中正人の恋物語です。ぜひご覧ください。

第1章－1　恋・・・

私は、柴田直子、塾の田中正人先生に恋をしてしまった。
私は、親友のかおりに相談してみることにした。「私、塾の先生を好きになっちゃった。」
そうしたらかおりが、「直子の恋を応援するよ、親友じゃん！」とかおりは言ってくれた。
ちなみに、かおりは、岩田かおりの事である。とても仲がいいんだ。学校も一緒で塾も一緒なんだ。
そして、私は、かおりの言葉が嬉しかった。
私は、先生の事を家や学校で考えてしまう。だから、学校の時もボーとしてしまって、先生に怒られてしまうんだ。そんなある日、塾に行ったらその、先生に会ってしまったんだ。先生に挨拶をした。
「先生、こんばんわ、今日もよろしくお願いします。」と言った。
先生は、「こんばんわ、こちらこそよろしく」と言って、笑った。
先生には、先生の笑顔に一目ぼれをしてしまったんだ。だから、いつも先生の笑顔を見ると顔が赤くなっちゃうんだ。まさかこの時、先生と付き合うとは思わなかった。

先生目線・・・

柴田は知らないと思うが、俺は、柴田を好きになってしまった。でも、告白することができない。なぜなら、俺は、前の付き合ってた子に子供がいるからだ。付き合ったとしても、俺は、柴田に言うことができないと思う。俺は、柴田に会った。なぜか柴田に会うと心臓がドキドキ言ってしまう。なぜか俺にも分からない。俺は、「よぉ！こんな時に会うなんてなんか珍しいよな。」「どうも、確かに珍しいですね。」と柴田は言った。そして柴田は、「先生、結婚してるって本当ですよね・・・」と言った。

俺は何でそんなうわさが流れているかわからなかった。俺はこう言った。「それは、嘘だよ、好きな人はいるけどな。」と言った。柴田は嬉しそうな顔をした。俺はまだ告白できなかった。まさか、柴田が俺の事を好きだなんて知らなかった。

第1章ー2　先生からの告白・・・

私は、先生に普通のところで会ってから、1か月が過ぎた。
私は、いまだに告白することができず、困っていた。私は、また、かおりに相談してみることにした。
「かおりー！どうしたら告白できるかな？」そしたら、かおりが、「直子は、慎重に行くタイプだから、ゆっくりいけばいいんじゃない？」と言った。私は、かおりに、説得力があるねと言った。
私は、かおりの言葉を信じて、慎重にやっていくことにした。

次の日、私は、塾に行った。そして、先生に会った。私は、心臓がドキドキしてしまった。

先生に、「いきなりだけど、俺と付き合ってくれないか。」と言われ私は、一瞬頭が真っ白になった。

私は、「先生、本当ですか！嘘じゃなければ、付き合います。」と言った。すると先生は、「嘘じゃない！俺は、本当に、柴田の事が好きなんだ！俺は、本当にお前と付き合っていいのか？」と言われた。私は、すごく嬉しかった。本当に付き合えるんだと思った。そして私は、

「はい！私も先生の事好きですから！」と言った。先生と付き合うことになった。すごくうれしかった。

私は、この時、先生とある原因で別れるなんて思ってもみなかった。

幸せな時間

先生と付き合い始めて3か月になった。
相変わらず先生とはラブラブな日々を送っている。
「先生、今日先生ん家に行っていい？」「いいよ。ココアでも作ってやろうか。」
「先生、ありがとう！」「お前、本当にココア、好きだもんな。」
先生に、お前って言われて、ドキッとした。相変わらず、先生は私をいつもドキドキさせてくれる。
そんな幸せが、長くは続かないとはまったく知らなかった。

ねぇ神様、先生との幸せが長くは続かないから、こんな幸せをくれたの・・・

先生目線2

俺は、すごく幸せだ。
遊園地に行ったり、ディズニーランドに行ったりした。
すごく楽しすぎた。
まさか、ほかの塾の生徒が見ていたなんて俺たちは知らなかった。
「ねえ先生、今日は楽しかったね。」「そうだな、お前と入れるなら俺は何でも楽しくなっちゃう」
という仲の良い会話がいつもあるのだった。
だが、しかしそう長くは続かなかった。
それが原因で別れるなんてこの時の俺はわからなかった。
俺はこんなにも愛していたというのに・・・

先生と・・・（前書き）

皆さん、お久しぶりです。更新できなくて本当にすみませんでした。

先生と・・・

私は、先生と付き合ってもう1週間がたった。
相変わらず先生はかっこいいと思ってしまう。
私は先生に、「明日休みだからどっかいかないか？」と誘われた。
私はもちろん「はい、いいですよ。」と言った。
私は、最後の時間まで塾に残り、先生と話ばかりしていた。
そして、先生の車に乗せてもらい、家まで送ってもらった。
そして嬉しいことに先生からキスをしてくれた。ちなみにファーストキスです。
「やっとキスすることができたよ。ありがとう直子。」と先生が言った。
その後先生とは別れ、しばらく私は、先生がキスしてくれたことで思考停止していた。
もう嬉しくて嬉しくてたまらなかった。
だから、先生と別れるなんてありえないと思った。
でも、まさかそんなことが原因で別れるなんて私にも分からなかった。

先生と・・・（後書き）

原因はのちほど出てきますのでお待ちください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0080p/

彼氏は塾の先生

2011年9月19日18時50分発行